

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	87.5%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	100.0%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	81.3%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	93.8%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「将来の夢や目標を持っている。」の項目は100%でした。肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。「自分には、よいところがある」という項目は、全国平均よりやや下回る場所がありますが、「友達との学び合い」は全国より上回っています。協働的な集団作りをしつつ、自己肯定感を高める指導も継続していきます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか。「3時間以上」	21.9%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	3.1%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.0%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	34.4%	27.4%
「30分より少ない」	9.4%	12.9%
「全くしない」	6.3%	5.7%

家庭学習について、「3時間以上」学習している児童が、全国平均より上回っています。よい学習習慣が身に付いていると考えられます。しかし、1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。学校で学んだことを家庭学習でより定着させることができるよう指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

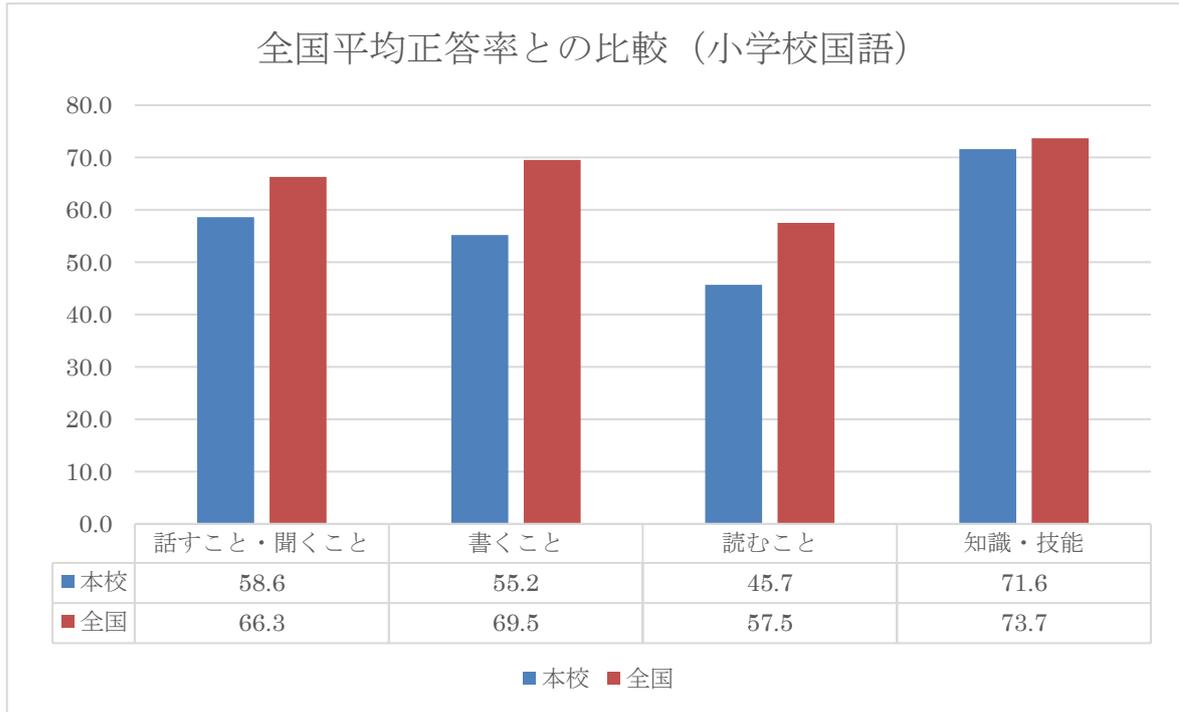
【学校では】

- 「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話をとおして、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。
- 川副中学校区で連携し、年3回の「家庭学習がんばり週間」を設け、家庭学習への支援を行います。カードに書かれてあるポイントをほめることで、学習意欲の向上や学習習慣の定着を図っています。

【ご家庭では】

- 主体的に学習する習慣を身に付けさせるために、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 6年生は70分、5年生は60分、4年生は50分、3年生は40分、1・2年生は30分が、家庭学習の時間です。「南川副小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国語



(1) 結果

どの領域も全国平均より下回る結果でした。無回答率は全国平均よりも下回っています。しかし、「書く領域」については、考える時間が足りなかったこともあり、無回答が多かったです。

(2) 成果と課題

「知識・技能」の領域は全国平均とほぼ同じでした。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、「記述式」の問題の正答率を上げることです。正答率 55.2%は、全国平均正答率 69.5%を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

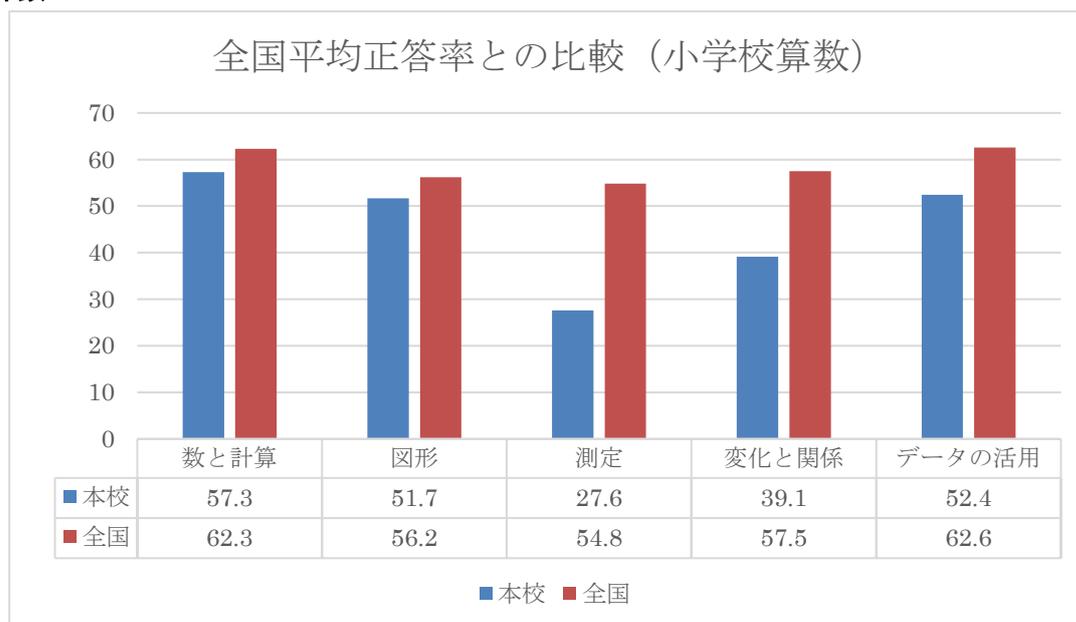
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。
- 漢字の読み書きなど、基礎的な内容の定着を図り、国語辞典での意味調べや短作文づくり等を通して語彙力を伸ばします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書習慣を身に付けるようにいましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、「読むこと」を楽しめるようになります。本校の図書館だけでなく、市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全体的に平均点を下回る結果でした。問題別にみると、数直線の目盛りの読み方、異分母同士の足し算など、問題によっては全国平均を上回っていました。「数と計算」領域で分数の加法を説明する問題と、「図形」領域で五角形の面積の求め方を説明する問題は記述式問題で、無回答率が全国平均より上回っていました。今後、授業の中で、自分の考えを説明させたり、図形の性質について改めて考えさせたりすることで、記述式問題への対応力をつけさせたいと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

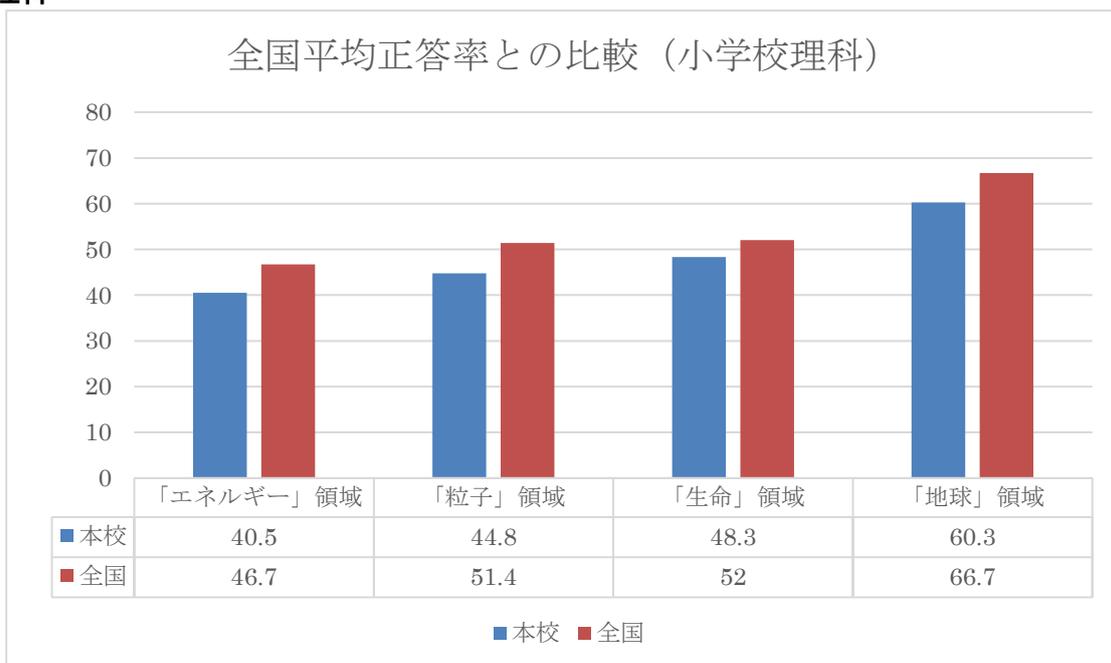
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 個別指導、ドリル、放課後学習会（チャレンジスクール）、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 算数の基礎的な力は正確に計算ができることです。学年が上がるにつれて四則計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）は特に重要となってきます。自主学習として計算力アップにつながるドリル問題に取り組むことも大切です。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「お菓子分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

全国平均正答率に近いものもありますが、すべての領域で下回る結果でした。また、無解答率を見ると、全国平均より下回っている問題が多くありました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域で、ヘチマの花のつくりや観察の記録に関する問題の正答率が、全国平均正答率を1～5ポイント上回っていました。また、「粒子」の領域で、水の温まり方に関する問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。しかし、土の粒の違いによる水のしみ込み方の説明や、レタスの種子の発芽の条件の説明の記述式問題は、全国平均正答率より下回っていました。今後も学習する中で、説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 生活の中の理科に関することを提示し、児童に理科への関心を高めるようにしていきます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。